

2024年度事業計画

I. 事業方針

地球温暖化に起因すると思われる世界的な自然災害の多発により、農林水産業・農山漁村における脱炭素化のためには生産から加工、流通、消費に至る各プロセスにおける電化の役割がさらに大きくなるものと予想される。

一方、昨年9月に内閣府が実施した「食料・農業・農村の役割に関する世論調査」では、約6割強の回答者が「環境に配慮した生産手法によって生産された農産物について、価格が高くても購入したいと思う」と答えており、消費者の環境性に対する意識が高まっている。ただし、購入にあたっては「どれが環境に配慮した農産物かわからない」という回答が6割強となっていることから農林水産省などは農作物の環境性について見える化を進めている。

今後、施設園芸や農業機械の電化が進み、それによって環境性に配慮したことが消費者から見えるようになれば生産者のメリットにつながると思われるため、当協会としても、これまで同様、施設園芸ハウスの安定的採熱のための省エネ・高効率機器とそれを用いた農業電化技術をお勧めすることとし、機関誌「農業電化」等の刊行物の発行、農業電化推進コンクールの実施、農業電化研究会・農業電化セミナーの開催などを通じ、積極的に発信していくこととする。

2024年度はこのような基本認識のもと、関係官庁のご指導をいただきながら、会員各位のご理解・ご協力により、次に掲げる項目を重点として効果的な事業展開を図るものとする。展開にあたっては、生産者のニーズや農林水産業ならではの使い方などを常に念頭に置くものとする。

1. 再生可能エネルギーを含め、エネルギーを効率的に利用するための農業電化機器・システムの普及促進
2. 農林水産物のあらゆる生産プロセスにおける脱炭素化を進めるための農業電化機器・システムを安全・効率的に利用するための提言、推進
3. 農林水産業の課題解決に資する最新の情報収集・発信

II 具体的実施事項

1. 農業電化推進コンクールの実施

わが国農業の発展の根幹となる科学化農業の確立を目指して、意欲的に農業電化による経営や技術の改善に取り組み、農業電化の普及奨励等を通じ地域社会の発展に貢献している農業者および農業団体を表彰し、その成果を広く紹介して農業電化の一層の推進に資する。 (実施予定10月～)

2. 調査研究活動

第60回農業電化研究会、第3回農業電化セミナーの開催

農林水産業における新技術の普及奨励等を目的とし、農林水産省のご支援および会員企業・団体の協力のもとに農業電化研究会を開催し、各地区からの研究発表を実施する。2024年度も来場型の研究会ではなく、ウェブを活用したオンデマンド方式による開催を予定（予定：11月）。

また、農林水産業の脱炭素化に向けた情報発信の場として農業電化セミナーもウェブを活用したオンデマンド方式で開催する（上期に開催を予定）。

3. 普及活動

(1) 会勢の維持拡大をはかるため、より魅力ある活動の展開を図る。

・会員や農業電化シンポジウム参加者へのメールマガジン送付などともに、全国の農業関連団体・企業、農業高校、農業大学、農電功労者等を対象に加入を勧奨。

(2) 当協会がこれまで蓄積したノウハウやスキルを活かすことで農林水産業の発展に尽力することを目指し、情報提供とともに収益の拡大を図る。

4. 広報出版活動

(1) 機関誌「農業電化」の発行

各地域における採用事例を多く掲載する等、内容の充実とともに読者の参考になる読みやすい記事の掲載を念頭に発行する。 (隔月発行：奇数月)

また、農業電化研究会における各地区の研究成果の集約版「農業電化特集号」を発行する。(発行予定：11月)

(2) 協会ホームページの活用

ホームページを最大限活用し、情報発信等で会員サービスの充実を図るとともに出版物販売の拡大を目的としたPRも積極的に行う。

(3) 農業電化に関する新たな技術システムに関する書籍の作成

ニーズを踏まえ、作成を検討する。

(4) 各種行事への協賛

各地区内で開催されるイベント等への出展および関連団体主催の展示会、シンポ

ジウム等への協賛等を通じて農業電化の普及促進をはかる。

- ・ J A G R I (旧農業W e e k) (2024年10月頃)
- ・ 農林水産祭 (2024年11月)
- ・ 日本生物環境工学会シンポジウム (2025年 1月頃)
- ・ 施設園芸技術総合セミナー (2025年 2月頃)

以 上